#### 知能プログラミング演習 I

# 第1回: Python入門/パーセプトロン

講義担当教員: 稲津 佑

スライド作成者: 稲津 佑, 烏山 昌幸, 田中 剛平, 梅津 佑太

### この講義について

#### 講義の目的

- フリーの言語 python を使って深層学習の基礎を学ぶ
- 実際に自分で手を動かしてアルゴリズムを習得する
- Moodle に upload されている<mark>講義ノート</mark>を参照しながら進めること

#### 成績評価

提出課題+レポート

### この講義について

#### 担当者

- 教員 稲津 inatsu.yu@nitech.ac.jp
- 教員 烏山 karasuyama@nitech.ac.jp
- 教員 田中 gtanaka@nitech.ac.jp
- TA (M2) 金山 kanayama.takuya.mllab.nit@gmail.com
- TA (M2) 野口 noguchi.shuto.mllab.nit@gmail.com
- TA (M1) 鹿谷 shikatani.rikugo.mllab.nit@gmail.com

## 講義内容(予定)

- 1. python 入門/パーセプトロン
- 2. 3層ニューラルネットワーク/深層ニューラルネットワーク
- 3. オートエンコーダー
- 4. 時系列のためのニューラルネット: リカレントニューラルネット ワーク
- 5. 画像のためのニューラルネット: 畳み込みニューラルネットワーク |
- 6. 画像のためのニューラルネット: 畳み込みニューラルネットワーク II
- 7. 言語のためのニューラルネット: トランスフォーマー
- 8. 発展的な話題

### 休講,オンデマンド形式の実施

- 7月16日は休講
- 7月23日に「7. 言語のためのニューラルネット: トランスフォーマー」を実施する
- 「8. 発展的な話題」については7月23日の演習終了後にアップロードされた講義動画を視聴するオンデマンド形式とする

## 今日の講義内容

- 1. python の使い方
- 2. パーセプトロンの学習

## python の起動と終了

• ターミナルを起動し, python または ipython を実行することで利用可能.

✓ バージョンも含めて起動する場合は python3 を実行する

ファイルをターミナルから実行する場合,

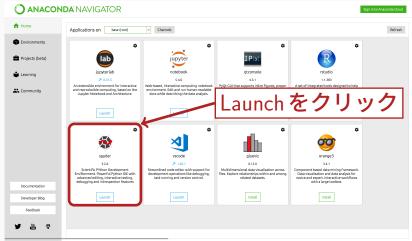
python (ファイル名).py

などとすれば良い.

• python を終了する場合は quit() または exit() を実行

## 自前の PC で python を利用する場合

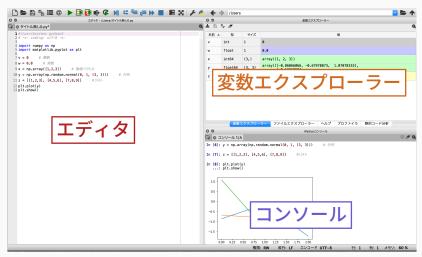
- Anaconda を自前の PC にインストールするのが便利で良い<sup>1</sup>
- Anaconda, spyder の順に起動し python を立ち上げる



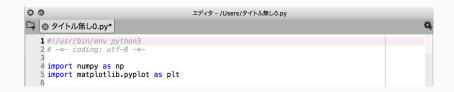
<sup>1</sup>CSE 環境ではこのスライドと次のスライドの内容は使えないので注意

### spyder

- エディタでアルゴリズムを作成 → コンソールで実行
- 定義済みの変数は変数エクスプローラーで表示される



## numpy と matplotlib



- numpy: ベクトルや行列演算のための数値計算モジュール
- matplotlib: グラフ描画ライブラリ

## python のデータタイプ

数値

- ベクトルx = np.array([1, 2, 3]) # 数値ベクトル
- 行列y = np.array(np.random.normal(0, 1, (3, 3))) # 行列
- リスト z = [[1, 2, 3], [4, 5, 6], [7, 8, 9]] # リスト

0 0			変数エクスプローラー	
± □ º, Ø				
名前 ▲	型	サイズ		値
v	int	1	0	
w	float	1	0.0	
x	int64	(3,)	array([1, 2, 3])	
у	float64	(3, 3)	array([[-0.86066066, -0.67970873, [-0.13219584,	1.07078333],
z	list	3	[[1, 2, 3], [4, 5, 6], [7, 8, 9]]	

### ベクトル演算I

```
In [2]: x = np.array([1, 2, 3], float)
In [3]: x[0]
Out[3]: 1.0
In [4]: x + 0.5
Out[4]: array([1.5, 2.5, 3.5])
In [5]: 2*x # 要素ごとの定数倍
Out[5]: array([2., 4., 6.])
In [6]: x**3 # 要素ごとのべき
Out[6]: array([ 1., 8., 27.])
In [7]: x*x # 要素ごとの積
Out[7]: array([1., 4., 9.])
```

### ベクトル演算Ⅱ

```
In [8]: y = np.array([4, 5, 6], float)
In [9]: x + y # 要素ごとの和
Out[9]: array([5., 7., 9.])
In [10]: np.dot(x, y) # 内積
Out[10]: 32.0
In [11]: np.outer(x, y) # 行列積
Out[11]:
array([[ 4., 5., 6.],
      [8., 10., 12.],
      [12., 15., 18.]])
In [12]: np.outer(y, x) # 行列積
Out[12]:
array([[ 4., 8., 12.],
    [ 5., 10., 15.],
      [ 6., 12., 18.]])
```

### 行列演算

```
In [2]: A = np.random.normal(0, 1, (3,3)) # 3*3行列
In [3]: B = np.random.normal(0, 1, (2,3)) # 2*3行列
In [4]: A
Out [4]:
array([[-0.54402056, -2.25872705, -0.84008799],
      [-0.45872658, -0.65348438, 0.14641837],
      [-1.9583066 . 0.11243239. 1.5944507 ]])
In [5]: A.T # 転置
Out [5]:
array([[-0.54402056. -0.45872658. -1.9583066].
      [-2.25872705, -0.65348438, 0.11243239],
      [-0.84008799. 0.14641837. 1.5944507 ]])
In [6]: np.dot(B, A) # 積BA
Out [6]:
array([[-2.68199056. 0.70173615. 2.38960981].
      [-1.84463277, -2.56791097, -0.06458365]])
In [7]: np.dot(A, B) # Aの列数とBの行数が異なるのでエラーが表示される
Traceback (most recent call last):
 File "<ipython-input-7-bb50fe1a139b>", line 1, in <module>
   np.dot(A, B) # Aの列数とBの行数が異なるのでエラーが表示される
ValueError: shapes (3,3) and (2,3) not aligned: 3 (dim 1) != 2 (dim 0)
```

### for 文と if 文

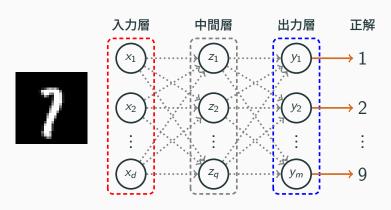
•  $i = 0, 1, \dots, 9$  まで順番に足す  $(x = 0 + 1 + \dots + 9)$ 

```
In [1]: x = 0
    ...: for i in range(0, 10):
    ...:    x = x+i
    ...:
    ...:
In [2]: x
Out[2]: 45
```

 $\bullet$  j が偶数なら y に j/2 を加え、それ以外なら (j+1)/2 を加える

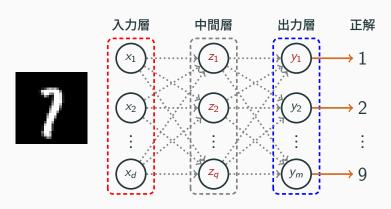
```
In [3]: y = 0
    ...: for j in range(0, 10):
    ...:    if j % 2 == 0:
    ...:    y = y + j/2
    ...:    else:
    ...:    y = y + (j+1)/2
    ...:
In [4]: y
Out[4]: 25.0
```

### ニューラルネットワーク



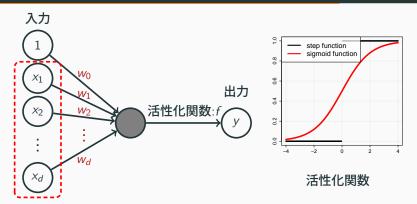
• ネットワークから得られた出力を正解と比較してモデルを学習

### ニューラルネットワーク



- ◆ ネットワークから得られた出力を正解と比較してモデルを学習
- ◆ 各ユニットにつながるネットワークはパーセプトロンと呼ばれる

## (一層) パーセプトロンによる分類器の学習



右図のような活性化関数 f を用いて

$$y \approx f(\mathbf{w_0} + \mathbf{w_1}x_1 + \cdots + \mathbf{w_d}x_d)$$

によって入力と出力の関係をモデル化し、データから重み  $w_0, w_1, \ldots, w_d$ を学習

ここでは二値分類  $y \in \{1,0\}$  を仮定

以降では,活性化関数は微分可能な sigmoid 関数(右図赤線)を使用

### 誤差関数 (クロスエントロピー)

$$E(\mathbf{w}) = -y \log f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}) - (1 - y) \log(1 - f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}))$$

- ある x と y のペアに対する誤差
  - if  $y = 1 \rightarrow E(w) = -\log f(w^\top x)$ このとき、 $f(w^\top x)$  が大きいほど誤差 E(w) は小
  - if  $y = 0 \rightarrow E(w) = -\log(1 f(w^{\top}x))$ このとき, $f(w^{\top}x)$  が小さいほど誤差 E(w) は小
- エントロピーや対数尤度として解釈可能(今日は省略)

## 確率的勾配降下法

- ランダムに訓練データ集合 {(y<sub>i</sub>, x<sub>i</sub>)} を並べ替える
- 順番にデータ y, x を読み, 誤差関数

$$E(\mathbf{w}) = -y \log f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}) - (1 - y) \log(1 - f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}))$$

が減少する方向に重み  $w_0, w_1, \ldots, w_d$  を勾配降下法で更新する

- 一度の更新ではランダムに並び替えて選ばれた一つの x と y だけ使 うので「確率的」勾配
- 適当な初期値 w<sup>0</sup> から始め, 学習率を η<sub>t</sub> として重みを更新 <sup>2</sup> (導出 は次頁以降)

- 確率的勾配降下法

$$\mathbf{w}^{t+1} = \mathbf{w}^t - \eta_t \Big( f(\mathbf{w}^{t\top} \mathbf{x}) - y \Big) \mathbf{x}$$

<sup>△</sup>誤差が減少する様子はエポック (データ全体を 1 回スキャンすること) ごとに確認する

## 誤差関数とその微分

#### 誤差関数

$$E(\mathbf{w}) = -y \log f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}) - (1 - y) \log(1 - f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}))$$

#### 確率的勾配降下法 —

$$\mathbf{w}^{(t+1)} = \mathbf{w}^{(t)} - \eta_t \nabla E(\mathbf{w}^{(t)})$$

誤差関数の微分:

$$\frac{\partial E(\mathbf{w})}{\partial \mathbf{w}} = -y \underbrace{\frac{1}{f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x})} \frac{\partial f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x})}{\partial \mathbf{w}}}_{\text{ybglighow}} - (1 - y) \underbrace{\frac{-1}{1 - f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x})} \frac{\partial f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x})}{\partial \mathbf{w}}}_{\text{ybglighow}}$$
$$= (f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}) - y)\mathbf{x}$$

## シグモイド関数とその微分

#### - シグモイド関数

$$y = f(\mathbf{w}_0 + \mathbf{w}_1 \mathbf{x}_1 + \dots + \mathbf{w}_d \mathbf{x}_d) = f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}) = \frac{1}{1 + e^{-\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}}}$$

• 練習:

$$f(x) = \frac{1}{1 + e^{-x}} \quad \Rightarrow \quad \frac{\mathrm{d}f(x)}{\mathrm{d}x} = \frac{e^{-x}}{(1 + e^{-x})^2} = f(x)(1 - f(x))$$

• シグモイド関数の微分3:

$$\frac{\partial f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x})}{\partial \mathbf{w}} = \underbrace{\frac{\partial f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x})}{\partial \mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}}}_{\text{$\widehat{\text{cklgbo}}} \text{$\widehat{\text{obs}}$} \text{$\widehat{\text{obs}}$} \text{$\widehat{\text{obs}}$} \text{$\widehat{\text{obs}}$} = f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x})(1 - f(\mathbf{w}^{\top} \mathbf{x}))\mathbf{x}$$

<sup>3</sup>偏微分を ▽ で表すこともある

#### まとめ

- ニューラルネットの最も基本的な構造: パーセプトロン
  - 入力の重み付き和を活性化関数に通し、出力を表現
- 確率勾配法によるパラメータの最適化
  - データを1点ランダムに選び,誤差関数の勾配方向に小さなステップ 幅で重みを更新